

滝川市公共下水道事業経営戦略【概要版】

1. はじめに

●経営戦略策定の趣旨

滝川市の下水道は今後、人口の減少や節水機器の普及による使用料収入の減少がより一層見込まれる一方、整備拡大してきた施設の老朽化に対応するため改築更新費用の増大が見込まれます。このような厳しい経営環境の中、将来予想を踏まえ、今後下水道サービスを持続的、安定的に提供するために、下水道事業経営戦略を策定します。

●計画期間

令和3年度～令和12年度(10年間)

※5年ごとに中間見直し

2. 現状と今後の見直し

●整備状況

下水道処理人口普及率:94.91%(全国平均91.7%)

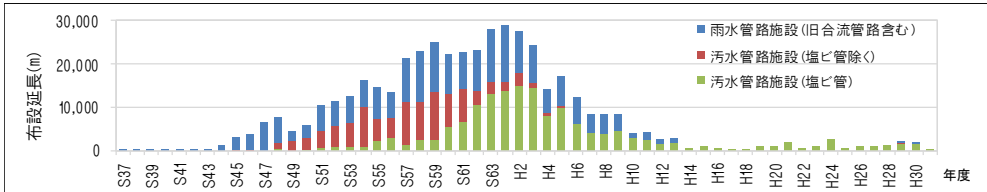
昭和43年に下水道事業に着手、平成13年までに面的整備はほぼ完了

平成19年から合流改善事業(完全分流化)に着手、進捗率約70%

●管路施設

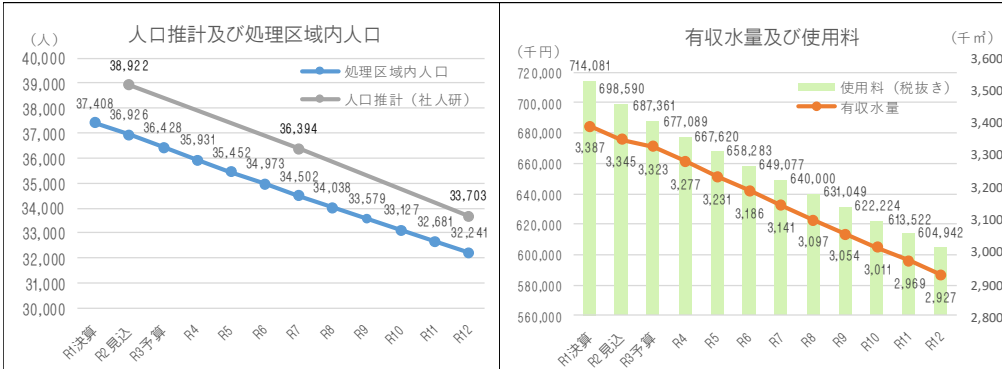
昭和50年代から平成初期にかけて集中的に投資をしており、管渠布設延長は約463km

昭和56年以前に敷設した管路約111kmが10年後には耐用年数50年を超える見込み(全体の約24%)



●使用料収入

人口減により処理区域内人口も減少することに伴い、今後10年間で使用料収入が約13%減少する見込み



※処理区域内人口…汚水を終末処理場で処理できる区域内の人口

※有収水量…下水道で処理する汚水のうち、使用料収入の対象となる水量

3. 経営の基本方針

「将来にわたり持続する下水道事業」

1. 投資方針:「計画的な下水道の整備と維持管理の推進」

⇒ ストックマネジメント計画等に基づいた設備投資の平準化を推進し、ライフサイクルコストの低減とともに、施設の安全確保と長寿命化を図る。

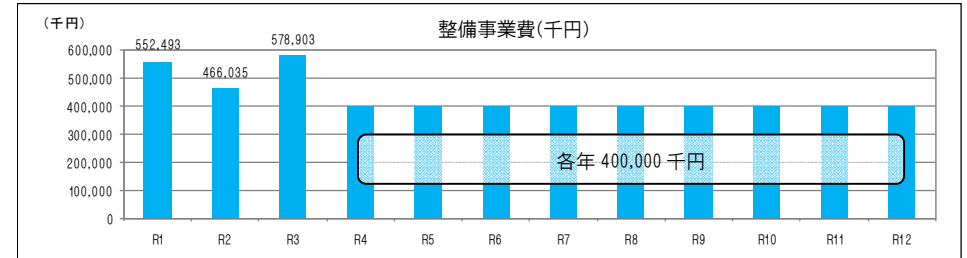
2. 財政方針:「経営基盤の強化」

⇒ 使用料の定期的な見直し等による収入の確保、並びに施設の長寿命化等による将来費用の抑制によって、健全な経営の維持に努める。

4. 投資・収支均衡策

●投資計画(整備事業費(事務費を除く))

ここ数年は合流改善事業へ集中的に投資を行ってきたが、今後は増大する施設の更新にシフトしていくため、経営バランスを考慮し、令和4年度以降は設備投資の平準化を図ることにより各年4億円と推計します。

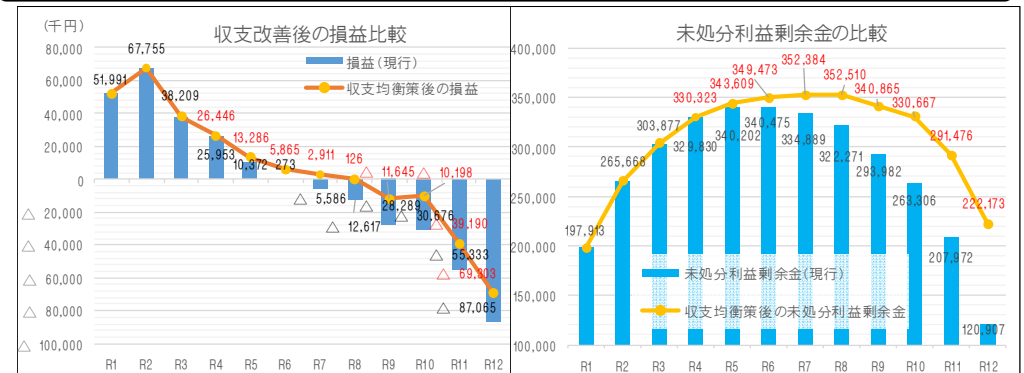


●収支均衡策

整備事業費に係る地方債の借入額や借入年数の精査により、支払利息を圧縮
テレビカメラ調査に基づき、改築更新の優先順位を明確化し、単年度投資額を圧縮及び平準化
単年度収支不足は、未処分利益剰余金にて一時的に吸収⇒令和12年度以降枯渇



概ね5年毎に行う滝川市営事業等調査審議会にて収支不足改善に向けた使用料の見直しを審議する。



※未処分利益剰余金…各年度の収益的収支による純利益のうち、減債積立金等に処分されていない剰余金